

# 議員派遣報告書（閲覧用）

令和6年3月4日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 水野 正敏

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

## 記

派遣目的	ポーランドとの経済・文化交流に関する事情調査及び岐阜県・シロンスク県との海外連携等調査及びハンガリーでの、岐阜県の地場産業の協同による産業振興策及び文化施設の事情調査を行い、今後の本県の政策立案に役立てる
行程表、派遣成果	別紙のとおり
県政に活用できる事項	
県担当課	内 容
文化創造課	音楽文化の振興や国際交流の今後の更なる展開に関する事
文化伝承課	現代陶芸美術館との協同展開等に関する事
地域産業課	伝統工芸と地場産業の協業による産業振興策に関する事
国際交流課	各国との新たな友好交流提携締結における国際的な交流を通じた海外戦略に関する事
収集資料（別添のとおり）	

日 程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通機関	日 程 の 概 要 訪問予定先名称等	宿 泊 先
8/28 (月)	午後		15:50 18:46 AY62 21:50	西岐阜駅発 羽田空港着 羽田空港発	
8/29 (火)	午前 午後	フィンランド ヘルシンキ ポーランド クラクフ カトヴィツェ	AY1161 専用車	4:40 ヴァンター空港着 7:30 ヴァンター空港発 8:30 クラクフ空港着 17:00 カトヴィツェ着 19:30 シロンスク県主催夕食懇談会 (カトヴィツェ泊)	ホテル モノポール
8/30 (水)	午前 午後	ポーランド カトヴィツェ クラクフ カトヴィツェ	専用車	10:00 シロンスク県との友好覚書調印 式出席及び議事堂視察 12:30 日本美術技術博物館「マンガ」訪 問・面談・視察 19:00 プシュティナ城にてシロンスク歌 劇公演視察 19:30 シロンスク県知事主催夕食懇談 会 (カトヴィツェ泊)	同上
8/31 (木)	午前 午後	ポーランド カトヴィツェ ワルシャワ	専用車	9:30 コシエンチェン宮殿視察 11:00 劇団シロンスク公演視察 14:00 カトヴィツェ発 17:30 ワルシャワ着 (ワルシャワ泊)	ノホテル ワルシャワ ツェントラム
9/1 (金)	午前 午後	ポーランド ハンガリー ブダペスト	LO535 専用車	10:50 ワルシャワショパン空港発 12:10 ブダペスト空港着 14:30 国会議事堂視察(知事勲章授章 立会) 16:30 恐怖の館視察 (ブダペスト泊)	メルキュール ブダペスト シティセンター ホテル
9/2 (土)	午前 午後	ハンガリー ヴェスプレーム ヘレンド	専用車	10:30 ヴェスプレーム市(ネーマ・ユリア 氏美術展示)視察、市長面談 12:10 美濃焼展関係者と昼食懇談 14:30 美濃焼展、美濃焼工場視察 (ブダペスト泊)	同上

9/3 (日)	午後	ハンガリー ブダペスト	専用車	18:30 19:30	リスト音楽院視察、面談 リスト音楽院コンサート鑑賞 (ブダペスト泊)	同上
9/4 (月)	午前 午後	ハンガリー フィンランド	AY1252 JL48	12:00 15:20 16:40	ブダペスト空港発 ヴァンター空港着 ヴァンター空港発	機内泊
9/5 (火)	午後			12:55	羽田空港着	

## ポーランド・ハンガリー派遣報告書

○岐阜県議会議員 水野正敏

○期間 令和5年8月28日～令和5年9月5日 6泊9日

○視察先

1. ポーランド シロンスク、クラクフ
2. ハンガリー ブダペスト、ヴェスプレーム、ヘレンド

### 【はじめに】

今回の欧州渡航の目的は大きく2点あります。

まず、ポーランドについては、報告書の中でも触れますが、シロンスク県との友好覚書を締結するきっかけが、ポーランドカヌーチームの東京オリンピック事前合宿地に恵那市笠置峡が選ばれたことです。

オリンピックがコロナ禍での開催となり、海の森水上競技場へ直接応援に出向くことはできませんでしたが、事前合宿中に恵那市を上げておもてなしの心で対応したこと、地元中学生との交流、ウクライナ支援に奔走する隣国ポーランドへの募金活動などがあり、その後、在ポーランド共和国パヴェウ・ミレフスキ大使の仲立ちにより、カヌー女子チームメダリスト2名の出身地でもあるシロンスク県との交流覚書締結につながったものであります。

今回の締結式には、恵那市長、市議会副議長、恵那市観光協会会長も出席されることから、恵那市選出の県議会議員として、野島議長とともに同席し、今回の交流覚書への県民・市民の思いを代表して伝える必要から、出席したものであります。

次に、ハンガリーについては、県政自民クラブ東濃県議団としても、毎年、新年度予算に向けての要望の柱として、東濃西部地域の主要地場産業であります陶磁器産業の振興策が挙げられております。

今回、3市の市長さんも出席される中で開催される、ヘレンド磁器博物館での「美濃焼展」を通じて、美濃焼とヘレンドとの人材交流や、伝統技術の伝承など、技術交流を推進することなど、東濃県議団の一員として、地域地場産業の振興策を肌で感じ取る必要があると考え、出席したものであります。

## 1. ポーランド視察調査の概要

- 【主な目的】 ●岐阜県としては、シロンスク県において、「経済、観光、スポーツ、文化」の4分野を軸とした友好覚書を締結するとともに、特に文化における今後の交流の展開に係る調査
- 地元である恵那市としては、クラクフにて「日本美術技術博物館マンガ」を訪問し、中山道広重美術館との協定に係る協議を行い、今後の調印に向けた調査を行う

【調査地】 ポーランド（調査都市：シロンスク、クラクフ）

【日程】 令和5年8月29日～31日

## 2. ポーランドの概要

- 1 面積 約 31.2 万平方キロメートル
- 2 人口 約 3801 万人（2022 年）
- 3 首都 ワルシャワ
- 4 民族 ポーランド人（97%）、シレジア人、ルーシ人等
- 5 言語 ポーランド語
- 6 宗教 カトリック約 85%、正教会約 1.3%、プロテスタント 0.4%等

## 3. 調査行程の概要

月日	調査地	調査概要
8/29(火)	シロンスク	シロンスク県主催夕食懇談会
8/30(水)	シロンスク クラクフ	シロンスク県との友好交流覚書調印式・議事堂視察 日本美術技術博物館訪問・面談・視察 シロンスク歌劇公演視察 シロンスク県知事主催夕食懇談会
8/31(木)	シロンスク	ポーランド国立民族合唱団「シロンスク」訪問・鑑賞 シロンスク県との祝賀ランチ

## 4. 調査報告

### (1) シロンスク県主催夕食懇談会

【日 時】 令和5年8月29日(火) 19:30～

【場 所】 カトヴィツェ市内 ホテル モノポール

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、観光国際部長、国際交流課長 他  
●県議会 野島議長、水野正議員、小原議員  
●恵那市 阿部恵那市観光協会会長、通訳  
●シロンスク県 クリシュターフ・クリモス県理事  
バルトウォミェ・バブーシュカ基金経営委員長  
アレクサンドラ・サラミガジーニ経済国際協力局副所長  
他、シロンスク県経済国際協力局の幹部職員

#### 【概要・所感】

ポーランド到着後、最初の宿泊地であるシロンスク県の県都カトヴィツェ市内のホテルにて、シロンスク県主催による夕食懇談会が開催されました。

出席者は、上記のとおり岐阜県及びシロンスク県のトップや幹部職員が一堂に会しましたが、我が地元の恵那市からも小坂市長をはじめ議会や職員の代表等が出席予定でしたが、飛行機トラブルにより間に合わず、先着していた阿部伸一郎観光協会会長のみの出席となりました。

会の冒頭では、クリシュターフ・クリモスシロンスク県理事をはじめ、県幹部の方々からの歓迎を受け、盛大な開会となりました。

翌日に控える岐阜県とシロンスク県との友好覚書調印式や以降の日程・行事の内容等を確認しつつ、令和5年4月にヤコブ・ヘウストフスキ県知事とともに岐阜県を訪問したシロンスク県幹部職員と、自然豊かな県であるという共通点や、ポーランドカヌーチームが恵那市を訪問した際の話など、活発な意見交換を行い、大変盛り上がりました。

シロンスク県の皆様は大変気さくで、また岐阜県を訪問された方は、岐阜の良さを語ってくださるなど、明日の調印式、今後の両県の友好関係がより良いものになると感じ、大変素晴らしい会となりました。



## (2) 岐阜県とシロンスク県との友好覚書調印式・議事堂視察

【日 時】 令和5年8月30日(水) 10:00～12:00

【場 所】 シロンスク県庁舎内県議会議事堂

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、観光国際部長 他  
●県議会 野島議長、水野正議員、小原議員  
●恵那市 小坂市長、柘植副議長、阿部恵那市観光協会長 他  
●シロンスク県 ヤコブ・ヘウストフスキ県知事  
アンナ・ジュディナック県副知事  
他、シロンスク県議会議員及びポーランド国立民族合唱舞  
踊団「シロンスク」メンバー

### 【概要・所感】

8月30日(水)、今回のポーランド訪問における一大行事である、シロンスク県との友好覚書調印式が開かれることとなりました。

今回の覚書締結に向けた経緯としましては、2021年7月に、東京オリンピックの事前合宿地として、ポーランドのカヌーチームが恵那市にて事前合宿を実施したことを契機とし、同年の9月に駐日ポーランド大使が岐阜県とシロンスク県との自治体交流をご提案されたことから始まりました。その後、同年12月、大使主催の岐阜県知事・恵那市長・シロンスク県知事及びヴィスワ市長5名でのオンラインによる更なる交流への意見交換を実施し、覚書へと前進しました。その後、協議や現地調査等を経て、「経済、観光、スポーツ、文化」の4分野を軸とした、友好交流の覚書を締結することで合意したところであります。

そして、今回調印式を行いますシロンスク県庁舎を訪れますと、まずは玄関ホールにて、シロンスク県知事や県幹部の方々からのお出迎えを受け、さらにポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」による中島みゆきの「時代」の合唱の披露を受け、大変喜ばしく思いました。

両県知事が別室にて面談を行う際中、我々は調印式の会場となる県議会議事堂を視察しました。現在の岐阜県議会議事堂とは趣を異にする歴史を感じさせる建物・内装に、東ヨーロッパの国々が辿ってきた複雑な歴史を改めて感じられました。

その後、議事堂において我々県議団や恵那市長をはじめとする恵那市訪問団の見守る中で、両県知事による調印式が行われました。調印式にて、ヤコブ・ヘウストフスキシロンスク県知事は、カヌーチームをもてなした恵那市に改めて謝辞を述べ、「シロンスク県と岐阜県の交流を発展させる歴史的な一日になりました。シロンスクの県都であるカトヴィツェの名を日本の皆さんに知ってもらえたらありがたい」と挨拶をし、古田岐阜県知事からは「コロナ禍の中で両県の交流が迅速に進んだことは奇跡であり、お互いにもっと知り合い、交流を深めていきたい」と感謝の言葉を述べていました。

今回の覚書を基に、岐阜県では早速11月には国立民族合唱舞踊団「シロンスク」に来県いただき、公演を行いました。私も鑑賞させていただきましたが、大変素晴らしく感動し、と

もに観覧された方々も感動しているようでした。

この他にも、「経済面」では、両県のビジネスに関する情報交換やビジネスマッチング支援、互いの特産品に係る物産展等のイベントの開催、「観光面」では、旅行博・観光イベントのPRイベントの実施、「スポーツ面」では、若年層からアスリートまでのスポーツ交流、「文化面」では、美術館等の文化施設間の協力による芸術文化交流の推進など、軸となる4分野を中心に両県の交流の輪が広がることを期待します。





### (3) 日本美術技術博物館マンガ訪問・面談・視察

【日 時】 令和5年8月30日(水) 12:30～15:00

【場 所】 クラクフ市内 日本美術技術博物館マンガ

【出席者】 ●県議会 水野正議員  
●恵那市 小坂市長、柘植副議長、長谷川中山道広重美術館理事長 他  
●博物館 カタルジナ・ノヴァク館長  
ラスコウスカ・スモチンスカ日本語学校担当者

#### 【博物館の基本情報】

- 1920年にフェリクス・“マンガ”・ヤシェンスキ氏から収集品の一部である6500点にも及ぶ浮世絵、掛け軸、屏風、鎧、兜、刀剣、漆器、着物、印籠等の日本の美術品が寄贈されたことに端を発す美術館
- 現在、ポーランドで唯一の日本文化を紹介する国立博物館
- 日本伝統美術品と日本現代アートの常設展、企画展を開催するほか、日本文化に関するワークショップや講演会、コンテストなどを定期的に行い、ポーランド国内での日本文化の普及に努めている。
- 歌川広重の版画も所蔵されており、年間15万人の来館者を誇る。

#### 【概要・所感】

ポーランドシロンスク県との友好交流覚書調印式後、知事一行から外れ、恵那市一行とともに前日に飛行機トラブルで実施できなかった、クラクフにある日本美術技術博物館マンガの訪問・面談へと向かいました。

今回の博物館訪問は、恵那市立の中山道広重美術館と日本美術技術博物館とが、令和6年3月に恵那市において友好交流協定締結を予定しており、協定調印に向けた協議を進める旨の覚書を、ノヴァク館長と長谷川理事長との間で交わすものです。その席に、恵那市長・恵那市議会副議長とともに同席し、今後の交流の一端とすることを期待しました。

今回の協議において、令和6年3月に恵那市において、中山道広重美術館と日本美術技術博物館マンガが協定書の調印式を行えるよう、協議を継続することで一致しました。また、協議後は、館内に併設されています日本語学校、図書室、茶室、舞台及びテーマ展示室などを視察し、カフェ・マンガにて今後の交流の進め方などについて、意見交換を行いました。ノヴァク館長からは「締結しようとしている協定は我々にとって大変重要で素晴らしいものになる」と期待の一言を返し、長谷川理事長からは「交流はきっと素晴らしいものになる。ポーランドとの多層的な友好関係が築かれる」と応えていました。

歌川広重という共通の浮世絵師の版画・絵画などを所蔵する、日本とポーランドの2つの美術館が今後も協力して文化交流を展開していくことを期待します。

なお、3月の協定締結に向けた協議として、令和6年1月に日本美術技術博物館マンガの

ノヴァク館長が来県し、恵那市や岐阜県を訪問しました。恵那市においては、恵那北中学校を訪問・交流し、ポーランドや博物館の紹介、2025大阪関西万博における同館の役割を生徒たちに説明し、交流を深めていました。さらに版画原版の工場や中山道広重美術館を視察され、今後の友好協定に向け、大変有意義な訪問となりました。岐阜県においては、古田知事を表敬訪問し、「清流の国ぎふ」文化祭のオープニングにポーランドの国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の講演を予定しているなど、文化祭に向けポーランドとの交流が深まっており、両館の交流が岐阜県とポーランドの交流の更なる発展につながるもので、積極的な交流をお願いしたい旨の発言がありました。

3月の友好協定締結を経て、若い方たちにも日本の伝統文化が広がり、より一層の交流につながることを期待したいと思います。



## (4) シロンスク歌劇公演鑑賞・シロンスク県知事主催夕食懇談会

【日 時】 令和5年8月30日(水) 19:00～21:30

【場 所】 プシュティナ城内

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、観光国際部長 他  
●県議会 野島議長、水野正議員、小原議員  
●恵那市 小坂市長、柘植副議長、阿部会長、長谷川理事長 他  
●外務省 宮島駐ポーランド日本国特命全権大使  
●シロンスク県 ヤコブ・ヘウストフスキ県知事  
バルトウオミェ・バブーシュカ基金経営委員長  
ウカシュ・ゴイック シロンスクオペラディレクター  
マチュエイ・クルス プシュティナ城館長 他

### 【概要・所感】

恵那市一行との博物館訪問を終え、シロンスク県へ戻り知事一行と合流した後、シロンスク県手配の車にて、プシュティナ城へと向かいました。プシュティナ城は、歴史上、貴族の邸宅であったが、20世紀半ばに国有化され、第二次世界大戦後は、一時的にソビエトの軍病院となった時期を経て、現在は博物館としての役割を果たしている、ポーランドで最も美しい城の一つに数えられています。今回は場内の大広間を利用し、歌劇団によるオペラコンサートや懇談会が開催されましたが、これは第二次世界大戦後では初めて開かれるもので、大変貴重な体験をさせていただきました。

シロンスク県のビトム市に本拠地を置くオペラ劇団「シロンスク・オペラ」によるヴェルディの歌劇「椿姫」の中の「乾杯の歌」がピアノ伴奏で披露されると、会場内が一気に華やぎ、ポーランド国の岐阜県に対する歓待ぶりに圧倒され、また嬉しくもありました。

引き続き行われた懇談会では、宮島駐ポーランド日本国大使から、「両県の熱意に感謝するとともに、関係が深まることを願っている」との発言を、両県知事が笑顔で聞いているところを見ると、午前中の調印式を経て、さらに両県の仲が深まり、今後の発展に生かされていくことが確信できました。

私自身も、恵那市一行とともに、ポーランドの出席者の方々と意見交換を行い、岐阜県や恵那市とポーランドとの今後の関係発展に向け、観光面・文化面などで努力していくことを約束いたしました。



## (5) 劇団「シロンスク」コンサート鑑賞・昼食懇談会

【日 時】 令和5年8月31日(木) 9:30～13:45

【場 所】 コシエンチェン宮殿

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、観光国際部長 他  
●県議会 野島議長、水野正議員、小原議員  
●恵那市 小坂市長、柘植副議長、長谷川理事長 他  
●外務省 宮島駐ポーランド日本国特命全権大使  
●シロンスク県 ヤコブ・ヘウストフスキ県知事  
ズビグニェク・チェルニャク シロンスク団長 他

### 【概要・所感】

前日にシロンスク県庁舎において、中島みゆきの「時代」の合唱でお出迎えいただいた、国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の活動拠点である、コシエンチェン宮殿へと向かいました。

到着時には、ズビグニェク・チェルニャク団長をはじめ、「シロンスク」幹部の方々のお出迎えを受け、その後、文化遺産にも認定されているコシエンチェン公園に内にある宮殿へと案内されました。

宮殿内は大変興味深いものでありましたが、中でも「シロンスク」の活動や歴史を綴る資料展示室では、1953年7月の設立以来、44カ国9,000回を超える公演を行い、2,700万人以上の観客を動員してきたこと、現在合唱団と舞踊団、オーケストラで編成された団員は、約150名おられ、オペラ、宗教音楽、地域の歌や踊りなど幅広いレパートリーを持ち、圧巻の合唱と色鮮やかな衣装、優雅な伝統舞踊から芸術性が高く評価されてきたことなどを知りました。また、コシエンチェン宮殿を本拠地に、海外も含め年間200回を超える公演を行っており、ポーランドの「文化大使」と呼ばれているなどの説明を受けました。海外公演の資料には、日本公演のポスターやパンフレットも展示されており、幅広い活動に感服いたしました。

宮殿内の視察後は、公演用のステージに移動し、公演前のセレモニーに立ち会いました。セレモニーではシロンスク県知事も出席され、団長とともに古田知事へ民族衣装が贈呈されました。ヤコブ・ヘウストフスキシロンスク県知事からは、「両県の協力と友好が発展することを願ってやまない」と挨拶があり、古田知事からは民族衣装のプレゼントに対する御礼とともに、前日の「時代」の合唱にも触れ、「ここポーランドの地で、中島みゆきの歌を聴くとは思ってもみなかった。大変感激した」と挨拶しました。

その後、日本国内ではなかなか観ることのできない、色彩豊かで迫力満点のステージに、私も含め、岐阜県訪問団一同魅了されました。ステージ終了後、我々と古田知事との会話の中で、「今回は岐阜県側として地歌舞伎の団体等も同行していないので、現地の方にお見せするものがない。議員も含めた一行で、白波五人男でもやれたらこの場がもっと盛り上がる

のに」と話し、確かに文化交流ということならお返しも必要であると思いますが、あのレベルの高いステージに対する返礼が素人の五人男では申し訳ない気もし、やるなら鬘や簡単な衣装など道具も必要で、少し練習してこないと人前ではできないと、改めて地歌舞伎が最も盛んな地域の議員として思ったところです。

ステージ終了後は宮殿内のホールにて、ヤコブ・ヘウストフスキ県知事、スビグニェク・チュルニャク団長以下、「シロンスク」幹部と古田知事、野島議長、小坂恵那市長をはじめとする岐阜県訪問団による昼食懇談会が開かれました。

今回の訪問において、シロンスク県知事及び関係者の方々との最後の懇談となるため、今回いただいた数々のおもてなしに深く感謝申し上げるとともに、今後の交流の方針及びスケジュール等についても意見交換を行いました。この中で、11月にも「シロンスク」方々に来日していただき、岐阜公演が予定されるなど、具体的な話にまで及び、大変有意義なものとなりました。

そして、11月23日にはその具体的な話が実現します。岐阜清流文化プラザにおいて、来日した「シロンスク」による岐阜県公演が行われ、大変盛況でした。今回の公演内容は、私どもがコシエンチェン宮殿で鑑賞したのものとは趣が異なり、前衛的な内容でしたが、ステージは大変素晴らしく魅力的なものでした。

終了後には、プラザのホールにて関係者とともにレセプションが催されました。今後のポーランド及びシロンスク県との交流が、多方面に広がっていくことを大いに期待したいと思います。





## 1. ハンガリー視察調査の概要

【主な目的】 ハンガリーにおける「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」の推進及び国際陶磁器フェスティバル 2024 に向けた人材交流・美濃焼産業振興に係る調査

【調査地】 ハンガリー（調査都市：ブタペスト、ヴェスプレーム、ヘレンド）

【日程】 令和5年9月1日～3日

## 2. ハンガリーの概要

- 1 面積 約 9.3 万平方キロメートル（日本の約 4 分の 1）
- 2 人口 約 973 万人（2022 年、中央統計局）
- 3 首都 ブダペスト
- 4 民族 ハンガリー人（86%）、ロマ人（3.2%）、等（2011 年国勢調査）
- 5 言語 ハンガリー語
- 6 宗教 カトリック約 39%、カルヴァン派約 12%

## 3. 調査行程の概要

月日	調査地	調査概要
9/1(金)	ブタペスト	国会議事堂視察 恐怖の館
9/2(土)	ヴェスプレーム ヘレンド	ヴェスプレーム市内視察（ネーマ・ユリア氏展示）、同市長面談 美濃焼展関係者との昼食懇談会 美濃焼展開会セレモニー、美濃焼展内覧会視察 ヘレンド社工場視察
9/3(日)	ブタペスト	リスト音楽院関係者との面談・視察 リスト音楽院コンサート鑑賞

## 4. 調査報告

### (1) ブタペスト国会議事堂知事勲章授与式立会・恐怖の館視察

【日 時】 令和5年9月1日（金） 14:30 ～ 17:30

【場 所】 ハンガリー国会議事堂

【出席者】 ●岐阜県 古田知事  
●県議会 野島議長、水野正議員、小原議員、  
山内議員、小川議員、今井瑠議員 ※勲章授与立会除く  
●外務省 大鷹駐ハンガリー日本国特命全権大使  
●ハンガリー ヤカブ・イシュトヴァーンハンガリー議会副議長  
シュティフター・アダム外務貿易省東洋関係担当副大臣  
チャガ・ガーボル文化・イノベーション省文化外交担当副大臣  
ローリング・ダニエル外務貿易省最速発展途上経済局長  
※恐怖の館へは議長を除く議員5名にて視察

#### 【概要・所感】

9月1日（金）、ハンガリー・ブダペストに入り、国会議事堂において古田肇知事がハンガリー国騎士十字功労勲章を授与されました。ハンガリー騎士十字功労勲章は国籍問わず、ハンガリーの発展に貢献した人物に贈られるもので、同国の高級磁器メーカー「ヘレンド」社の磁器を県内で展示したことや、名門音楽学校「リスト音楽院」と30年近く交流を続けたことなど、ハンガリーと岐阜県との間で長年にわたり産業や音楽文化の発展に寄与したことがハンガリー国より認められたものです。今回の訪問を通じて、両国の友好がさらに深まり、新たな交流につながることを期待します。

授与式後には、国会議事堂内を視察しました。議場の座席の下には通気孔があり、当時最新だった冷暖房装置が設置されていました。国会議事堂はハンガリー建国1000年を記念し、1904年に建設されました。長さ268m、奥行118m、高さ96mを誇るこの国会議事堂は、バロックやゴシック、オリエンタルなど様々な建築様式が用いられ、それが見事な調和を生み出し、その美しさは芸術とまで言われています。内部には、初代国王イシュトヴァーン1世の王冠が飾られているほか、ジョルナイ工場で作られたタイルやイタリア産の大理石を使用した柱や手すりなどがあり、当日も多くの観光客の方が見学されていました。今回行った視察方法以外にも、夜にライトアップされた議事堂をドナウ川の上から船に乗って観覧するツアーがあるなど、観光名所としての役割も果たしていました。

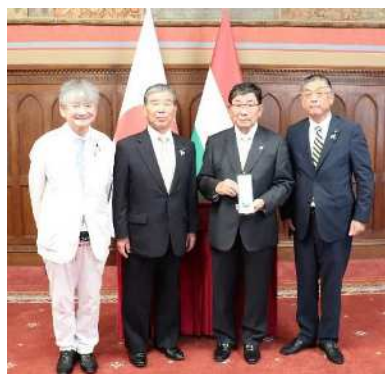
国と県が直接繋がり、岐阜県知事が信頼を積み重ねてきた功績が認められたことは大変喜ばしく、今後更に観光や地場産品PRの面でハンガリー国民に岐阜県を知ってもらうための働きかけや、日本を訪れた際の来訪地の選択肢になるように、引き続き人材交流や文化交流を行っていくべきであると考えます。



次に議長を除く議員のみで訪れた恐怖の館では、常設展示を現地ガイドの通訳により視察しました。

展示だけでなく現地ガイドさんの幼いころの実体験も交えてお話を伺いました。現在のウクライナとハンガリーの歴史的な関係の経緯は、ナチス・ドイツやソビエト連邦による虐殺、ハンガリー人民共和国時代の共産主義政権誕生～東西冷戦の最中で起きたハンガリー国家の分断が今もなお影響していると考えられます。恐怖の館は建物そのものが実際に拷問や抑留に使用された建物であり、犠牲になった方々への記念碑の役割も兼ねており、プライバシー保護のためにもメモやカメラ撮影による記録は禁止されています。

視察をして感じた何よりも重要なことは、外国人でも実際の虐殺や拷問の現場となった場所において、様々な資料から直接当時の様子や状況を知ることができる施設がハンガリーの首都にあり、容易に立ち寄って、歴史的背景を含めて知ることができるよう、工夫し、保存されていることに感銘を受けました。歴史教育において、より具体的な情報を追体験できる仕組みづくりについて、岐阜県でも検討の余地があると考えます。



## (2) ネーマ・ユリア氏「リキッド・アース展」を視察

【日 時】 令和5年9月2日(土) 10:30～11:20

【場 所】 ハウス・オブ・アーツ・ヴェスプレーム・ドゥブニツァイパレス

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、商工労働部長、観光国際部長、県民文化局副局長  
●県議会 野島議長、  
水野正議員、小原議員、山内議員、小川議員、今井瑠議員  
伊藤正議員、渡辺議員、野村議員、伊藤英議員、判治議員  
●市町村 高木多治見市長、水野瑞浪市長、加藤土岐市長  
●民間 山田岐阜県ハンガリー友好協会長  
●相手方 ネーマ・ユリア 陶芸家  
グラーズリ・ベルナデット (ハウス・オブ・アーツ・  
ヴェスプレーム・ドゥブニツァイパレス館長)  
ギュラ・ポルガ ヴェスプレーム市長

### 【概要・所感】

9月2日(土)、ハンガリー・ヴェスプレーム市内のギャラリー「ハウス・オブ・アーツ・ヴェスプレーム・ドゥブニツァイパレス」にて、「ウェイズ・オブ・アース展」を鑑賞しました。

ハンガリーの陶芸家であるネーマ・ユリア氏はハンガリーデザイン賞とノエミ・フェレンツイ賞を受賞され、独自の高温薪窯を持っているハンガリーで唯一のセラミックデザイナーで、今年度、県現代陶芸美術館で開催した「ハンガリー現代陶芸展」に出品いただくとともに、期間中に開催したアーティストトークイベントのため来岐され、多治見市に1週間滞在し、陶芸作家や陶磁器関係施設を訪問、交流されていました。

訪問時にネーマ氏は、「岐阜県を来訪した際に、陶芸家たちの土に対する尊敬を学び、現在はそれを宝として作品に向かっている。日本の粘土、日本の皆さんとの友情が蓄積され、作品が完成した」と語り、日本の陶磁器をほうふつとさせる新窯焼成で手掛けた食器セットなどを披露されました。また、日本で交流した2人の陶芸家との展覧会を、日本とハンガリーで開きたいとの思いも話されました。

また、ギャラリーではギュラ・ポルガ・ヴェスプレーム市長とも面会しました。ヴェスプレームは2023年の欧州文化首都となりました。欧州文化首都は、ヨーロッパの主要な文化シーンと観光地の地位を向上させることを目的として、地元の文化や自然や魅力をヨーロッパ全土や世界に伝えます。街のイメージを向上させ、地元の産業活性化や観光の魅力を高めるために、街のリノベーションが進んでいることなどの説明を受け、文化の情報発信について意見交換を行いました。

こうした日本の美濃焼が、やきものの枠を超えて世界で活躍する海外陶芸家から得られる新しい“やきもの”への視点や、街や地域全体を文化首都として盛り上げる文化首都の観点は、県内で行われる予定の、国際陶磁器フェスティバルや「清流の国ぎふ」文化祭に通じる

ものが大きいと考えます。どのように陶器や美濃焼の魅力を、これまでにはない形での魅せ方を行っていくのか、今回の訪問を受け、改めて考えていくべき課題であると認識しました。



### (3) ヘレンド博物館での美濃焼展オープニングセレモニー出席

【日 時】 令和5年9月2日(土) 12:10 ~ 17:30

【場 所】 ヘレンド社

【出席者】 ●岐阜県 古田知事、商工労働部長、観光国際部長、県民文化局副局長  
●県議会 野島議長、  
水野正議員、小原議員、山内議員、小川議員、今井瑠議員  
伊藤正議員、渡辺議員、野村議員、伊藤英議員、判治議員  
●市町村 高木多治見市長、水野瑞浪市長、加藤土岐市長  
●外務省 大鷹駐ハンガリー日本国特命全権大使  
●民間 山田岐阜県ハンガリー友好協会長  
笠井政志セラミックバレー協議会チェアマン  
伊藤克紀(株)カネコ小兵製陶所代表取締役  
●相手方 アッティラ・シモン ヘレンド社CEO  
イムレ・ポルガルディ ヴェスプレーム県議会議員  
ギュラ・ポルガ ヴェスプレーム市長  
※ ヴェスプレーム県議会議員・市長はオープニングセレモニーから出席

#### 【概要・所感】

9月2日(土)、ヘレンド磁器博物館で開催される「美濃焼展」のオープニングセレモニーのため、ヘレンド社(Herend Porcelain Manufactory Ltd.)を訪れ、アッティラ・シモン同社CEOとの面談、ヘレンド焼が製造されている工場を視察し、従業員の方からお話を伺いました。

ヘレンド社は、1826年初代ヴィンツェ・シュティングルによるハンガリー初の磁器工房として設立された歴史ある、陶磁器会社です。ヘレンド社と美濃焼の交流は、2021年9月に締結した「岐阜県とヘレンド社との友好協力に関する覚書」に基づくもので、2021年9~10月に開催された「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」において、同社の魅力や歴史を紹介した「美濃焼とハンガリーの名窯ヘレンド」展を行いました。今回は交流第2弾の取り組みとして、「美濃焼展」を開催しました。

「美濃焼展」では、故荒川豊蔵氏、加藤土師萌氏など6人の人間国宝の作品をはじめ、窯元・個人作家の作品が、約270点展示されました。オープニングセレモニーはオンラインにて配信され、ハンガリーの陶磁器関係者にも注目されました。シモンCEOは、美濃焼について、「伝統に基づいた匠の技が魅力的であり、陶芸家の才能や創造性に深く感銘し、尊敬に値する」と評価し、今後の連携については、「日本とハンガリーの架け橋として、文化や人材などの交流を継続していきたい」と述べました。また、多治見市から美濃焼展に出品している幸兵衛窯から開発室デザイナー佐藤雅子氏が、人材交流事業として2ヶ月間、ヘレンド社にて研修を行いました。

ヘレンド社と岐阜県の繋がりは、こうした地道な取り組みにより少しずつ深まっているも

のの、美濃焼産業全体に対する影響はまだ小さいです。ヘレンド社の上絵の技術の伝承や職人を養成する体制など、美濃焼産業が抱える課題に向き合い、ヘレンド社から学べる点を地元の事業者に対して、新しいビジネスチャンスや経営改善のヒントとなるように働きかけていきたいです。また、ヘレンド社は19世紀の創立以来、そのブランド価値を上げていくため、「職人のハンドメイド」により製造を続けており、その伝統と意匠を守り続ける取り組みにも多くの学ぶ要素があると考えます。県内の陶磁器に関連した研究施設とも連携した伝統技術や意匠の保存と伝承にも注目していきたいです。



## (4) リスト音楽院を訪問・学長と意見交換

【日 時】 令和5年9月3日(日) 18:30～19:20

【場 所】 リスト音楽院

【出席者】 ●岐阜県 古田知事  
●県議会 野島議長、  
水野正議員、小原議員、山内議員、小川議員、今井瑠議員  
●民間 山田岐阜県ハンガリー友好協会長  
●相手方 ヴィーグ・アンドレア 学長  
フェケテ・ジュラ 副学長  
ファルヴァイ・シャーンドル 教授  
オンツァイ・チャバ 教授  
サバディ・ヴィルモシュ 教授  
ヤンクシュ・バラージュ 国際関係部長

### 【概要・所感】

9月3日(日)に訪問しましたリスト音楽院は、世界でも屈指の音楽名門校として知られておりますが、岐阜県では1995(平成7)年から「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」において、若手音楽家の育成、サラマンカふれあいコンサート開催など、本県の音楽文化の振興や交流に多大な協力をいただいています。

本訪問では、ヴィーグ・アンドレア学長以下、教授など関係の皆様と知事が面談を行い、知事からは、岐阜県で開催予定の「清流の国ぎふ」文化祭2024に関する協力のお願いや、県内からも才能ある学生がリスト音楽院で学び世界で活躍していることから、これからも岐阜県とリスト音楽院の関係は貴重な繋がりを引き続き続けていきたい旨を、リスト音楽院に伝えました。

これまでの約29年間で、県内外の学生ら計600人超が「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」を受講し、レッスンなどで選ばれた計114人が同音楽院に留学している実績を踏まえた、より前向きな協力関係の構築をリスト音楽院学長と知事による面談で再度合意しました。

また、岐阜県からリスト音楽院に留学をした後に、国内外で活躍するプロ音楽家も巣立っており、今後は岐阜県としてどのように音楽文化を岐阜県内に広げていくのか、多様な音楽に県民が親しみ、子どもたちが将来の可能性を広げ、プロ音楽家が活躍できる場所を作り上げるのが、県の重要な役割になっていくと考えます。



## 【おわりに】

今回の派遣は、4年振りとなる古田知事による海外トップセールス及び本県の魅力発信と交流の進化を図るための訪問に同行したものです。

ポーランドでは、「経済、観光、スポーツ、文化」の4つの分野を軸として、新たな友好・交流の覚書を締結しようとしたものであり、ハンガリーではリスト音楽院やヘレンド社とのこれまでの交流で培った実績を進化させようとするものでした。

まず、ポーランド訪問で特に感じたことは、ポーランドのシロンスク県が、県対県による日本との交流は初めてとのことで、県庁舎正面玄関ホールにて「時代」の合唱での出迎えから始まり、議事堂での調印式、シロンスクオペラの上演で始まったプシュティナ城でのシロンスク県知事主催夕食懇談会、翌日ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」による歓迎のステージなど、どの場面においてもヤコブ・ヘウストフスキ知事自らが先頭に立っての熱烈な歓迎、日本でいう「おもてなし」の心あふれる対応に、本県との交流にかけるシロンスク県の思いの大きさ、真剣さを改めて感じたところであります。

交流の進展はすぐさまあらわれ、11月23日に岐阜清流文化プラザにて、劇団「シロンスク」の岐阜公演が実現し、多くの県民がポーランドの伝統舞踊に触れる機会を得ました。その際、劇団関係者との懇談にて、本年10月に予定する「清流の国ぎふ」文化祭2024のオープニングイベントに、劇団「シロンスク」が改めて来県し、公演いただける運びとなったことも大きな成果となりました。

さらに、本年2月27日、駐日ポーランド大使館において、パヴェウ・ミレフスキ大使立会いのもと、古田知事にも出席いただき、岐阜県ポーランド交流協会が設立される運びとなりました。このことも、今回の訪問がきっかけであり、交流協会の活動を通じて更なる交流の深化を期待いたします。

つぎに、ハンガリー訪問で最も印象深い場面は、古田知事が「ハンガリー国騎士十字功労勲章」受賞の榮譽にあずかれ、国会議事堂内で举行された授与式に野島議長とともに立ち会わせていただいたことです。「生涯忘れられない最良の日となった」「岐阜県とハンガリーとの交流に携わっていただいた皆さんとともにこの榮譽を分かち合いたい」との知事からのコメントにもあるように、立ち会いました私たちも、これまでの本県が積み重ねてきた交流を評価していただいた結果いただく勲章の重さをひしひしと感じたところです。

その後に展開された、ヘレンド博物館での美濃焼展をはじめとする多くの行事、リスト音楽院での意見交換やコンサート鑑賞も、この時の思いの延長にあるもので、交流事業の継続と進化の大切さを改めて感じたところです。

両国での視察を通じて思うことは、私たちと異なる文化や歴史を持つ諸外国との交流は、経済交流やインバウンドの増加等、産業振興のみならず、県民の知的好奇心を高め、心豊かな暮らしに必ずつながるものと思っています。

議会としても執行部と協力しながら諸外国との交流を推進していくため、さらに知見を高めていく必要があると考えます。